



2019 9 25

152-0002 6-15-3
TEL 090-1796-5099 FAX 03-4330-1880 MAIL office@n283.com

自転車は、環境負荷が低く、健康増進の観点からも利用されることの多い、非常に便利な交通手段ですが、近年は電動アシスト車やスポーツタイプ車が増加する一方、「ながらスマホ」や信号無視、傘差し運転やイヤホン走行といった違反も目立ち、場合によっては大事故に繋がりがねない、危険な側面があることを忘れてはなりません。

■ 自転車事故の全国的な動向

全国の自転車関連事故の件数は、2007年以降、減少の一途を辿っており、ここ10年でほぼ半減しています。ところが、全交通事故に占める自転車の割合は2017、18年と増加して約20%となっており、中でも対歩行者や自転車同士、そして単独事故が増加しています。

また、発生した事故の60%以上で何らかの交通違反があったとされており、この割合は10年でほぼ変わっていません。

国は、2013年の道路交通法改正で、路側帯の逆走禁止や、悪質な違反者の講習受講義務などを定めましたが、まだまだ交通ルールを徹底させるには至っていないと見ることができます。

■ 東京都は保険義務化へ

折しも東京都は先日、「自転車安全利用条例」を改正し、利用者の損害賠償保険への加入を義務としました。罰則はないものの、これまでの努力義務を引き上げる意味は決して小さくありません。

背景には、小学生が起こした自転車事故で、母親に約9500万円の支払いを命じた神戸地裁の判決のように、高額な賠償金が課されるケースが出ている一方で、保険加入率は53%程度と伸び悩んでいる

現状があります。

たかが自転車、されど自転車。皆さまは保険に加入しているでしょうか。

■ 目黒区も条例制定へ

目黒区はこれまで「交通安全計画」や「自転車走行環境整備計画」によって、ソフト・ハード両面から施策を講じるとともに、2019年1月からはシェア・サイクルを開始するなど、マナー啓発と活用のそれぞれを推進してきた経緯があります。

区内の自転車関連事故は、2018年で201件となっており、23区では珍しく減少傾向ですが、全事故に占める割合は全国の2倍近い状況です。私自身も多くの方から、車の運転中や歩行中などに「自転車にヒヤリとさせられた」というお声を頂いています。

区は、こうした社会的な動きや意識の高まりを受け、新たに条例を制定し、自転車の安全利用促進の仕組みづくりを行う方針を発表しました。まだ方向性の段階ですが、全ての利用者にヘルメット着用の努力義務を課すなど、早くも独自色が示されています。(詳しくは裏面参照)

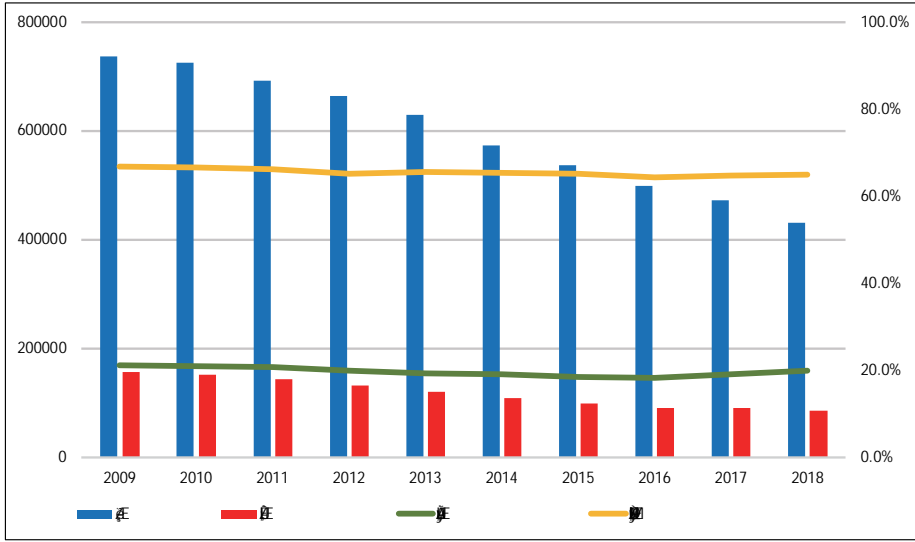
実際の条例案は来年2月の議会に提出される予定ですが、基本的な考え方について、10月20日まで意見募集が行われています。この機会に、皆さまもお考えをお寄せになってはいかがでしょうか。(もちろん、私にご意見を頂いた場合も、今後の議会活動で大いに参考にさせていただきます。)

乗る人も乗らない人も、ほぼ誰もが無関係ではいられない自転車ルール。目黒区は、どんな方向を目指すべきでしょうか。

皆様のご意見をお寄せ下さい！ office@n283.com

西崎つばさ
プロフィール

35歳、3児の父。円融寺幼稚園、向原小、九中、都立青山高校、東京外語大英語科卒業。目黒雅叙園に勤務後、手塚よしお秘書。その後、蓮舫秘書。目黒区議会議員2期。超党派グループ「東京若手議員の会」副代表。



在
 出
 在
 出

在
 出
 在
 出



在

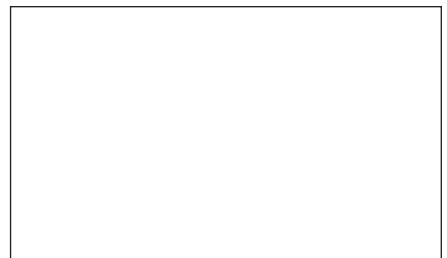
出



在



出



在

在
 出
 在
 出

在
 出
 在
 出

} 在 出



検索